

Q

## 子宮頸がんから命を守るために

こばやし  
小林ひとみ 議員



A

## 子宮頸がん予防ワクチンは多くの国々で承認されている



**問** 子宮頸がん予防ワクチン接種の有効性は。

**答** 子宮頸がんの95%以上はヒトパピローマウイルスの感染が原因であり、中でも二つの型のウイルスが約70%を占める。

定期接種に使用されている2種類のワクチンは、この二つの型のウイルス感染やがんになる手前の異形成を、90%以上予防すると報告されている。

**問** 諸外国の動向は。

**答** 2種類のワクチンを公費助成で予防接種している国は100か国以上あり、明らかな効果と安全性が示されている。

**問** ワクチンの周知方法は。

**答** 国の勧告を尊重して積極的な勧奨を控えているため、個別通知は行わず、ホームページや

広報紙において周知している。

**問** 個別通知をした自治体は。

**答** 近隣では、西部11市中4市が行なっている。

**問** ワクチンについてのリーフレットが改訂される予定である。

改訂を契機とし、情報提供のために個別通知すべきではないか。

**答** リーフレットの改訂後に、国から個別通知に関する正式な通知が示された場合、情報提供を検討する。

**◎その他の質問** 自治会をより良くサポートするために

Q

## 外出自粛下の取組について

おおそねひであき  
大曾根英明 議員



## A 新しい生活様式に合わせた取組を実施していく

**問** 外出自粛で表面化した問題と課題について。

**答** 新型コロナウイルス感染症の影響により、外出できない、人との交流ができないなど、精神面での不安やストレスが生じており、子どもから高齢者に至るまで幅広く心のケアをしていくことが課題と認識している。

新しい生活様式に合わせて市民の健康の保持増進に向けた取組を実施していく必要があると

考えている。

**問** 見守り体制について。

**答** 民生委員がいない地域を対象に、独り暮らしの高齢者の自宅を生活支援員が訪問し、必要な支援につなげるための取組を

6月から7月にかけて実施した。また、障害者や子どもなどを対象として、市と市民、事業所等が相互に連携して見守りを行う鶴ヶ島市見守りネットワークを設置し、必要な支援を行っている。

**問** 自殺防止対策について。

**答** 鶴ヶ島市のち支える自殺対策計画に基づき、ゲートキーパーの人材育成、市民への啓発事業、各種相談窓口の相互の連携強化、精神科の専門医による対面相談などにより、心理的な危機に陥っている方の早期発見、早期対応に努めている。

